



学校推薦型・総合型選抜って何？ 「楽しんで受かる」入試ではない！



学校推薦型・総合型選抜は、誰にでもオススメできる選抜というわけではない。では、「向いている」のはどういう人だろう。

(「蛭雪時代7月臨時増刊」より一部抜粋)

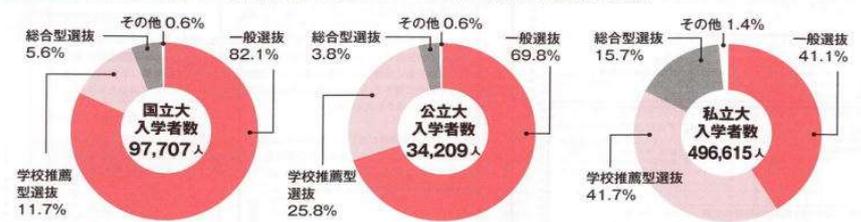
○学校推薦型・総合型選抜の両者に共通する特徴として、

- ・出願期間も合格発表日も一般選抜より早い
- ・学力試験だけではない多様な方法で評価される

という2点が挙げられる。これだけを見て「楽しんで早く合格できそう！」と思った人もいるかもしれないが、その認識は改めよう。

図を見てみると、学校推薦型・総合型選抜を経て入学する人の割合は、私立大でこそ全体の過半数を超えているが、国公立大ではまだ少数派。年々増加傾向にあることは事実としても、現状は客観的に見て「狭き門」なのだ。

図表8 選抜方式別の大学入学者の割合 (2022年入試/文部科学省資料より作成)



また入試スケジュールについて、出願日程を考えると学校推薦型なら11月、総合型なら9月までには選考を受ける準備が整っていなければならない。これは、高3になってからあわてても効果的な対策が採りにくいということを意味する。このように学校推薦型・総合型選抜は、決して楽な入試というわけではない。

〈向いている人①〉基礎学力がある人

学力試験によらず多面的な評価をする選抜方式なのに…と思う人もいるかもしれない。たしかに、かつてのAO入試では「一芸入試」と呼ばれ、学力よりも本人の特技などを重視する選抜方法が存在したが、現在では学校推薦型・総合型のいずれも、調査書の学業成績や共通テストなどによって基礎学力を評価することが基本となっている。「学力試験によらず」ではなく「学力試験『のみ』によらず」評価を行う選抜方法菜のだ。

これは付け焼き刃の対策が採りにくいとも言換えられる。特に学校推薦型選抜で重要となる調査書に記載される高校での学業成績は、一般的には3年の1学期まで。日常の授業や定期試験を通じて着実に基礎学力を積み重ねている人にこそ、道が開けていると言えるだろう。

〈向いている人②〉大学でしたいことが明確な人

学校推薦型・総合型選抜の選考では「大学の思い」と「受験生の思い」を具体的な形でやりとりすることになる。調査書などの資料や面接、小論文といった試験の中で、受験生は自分がどんな学びを積み重ねてきた人間であるか、大学でどんな活動をしていきたいかなどを明確に表現していくことになるからだ。

たとえば調査書。受験生の調査書には各教科・科目の学習の記録だけでなく、学級や生徒会などの活動、部活動の成果やボランティア、取得資格といった高校生活での実績が山ほど書かれる。こうした調査書を大量に読んでいく入試担当者の目にとまるか否かは、そこに書かれていることが単なる情報の羅列ではなく、受験生本人が大学生活に抱くビジョンにつながる“ストーリー”になっているかにかかっているとも言える。

大学ガイド等に掲載している志望校のアドミッション・ポリシー（入学者受入方針）を完全に理解していることは大前提。その上で、この大学で自分は何をしたいか、何ができるかを考え続けている人には、大学とのいわば“相思相愛”の結果が待っていることだろう。

〈向いている人③〉論理的に考え、表現できる人

当たり前の話だが、大学の入学担当者にとってすべての受験生は基本的には赤の他人。学校推薦型・総合型選抜が一般選抜と大きく違うのは、この「赤の他人に自分を知ってもらおう」ための作業が極めて重要であるということだ。

アドミッション・ポリシーを熟知し、大学への思いがいかにも熱いものであったとしても、それを相手に伝え、理解してもらわなければ、志望校への門は開かない。「その大学の学生として自分がなぜふさわしいか／なぜ、その大学でなければいけないか」という論を適切に組み立て、わかりやすい言葉で表現することがまず大切だ。

また、コミュニケーションとはこちら側からの発信だけではなく、相手とのキャッチボールが成立してこそ意味がある。特に、面接や集団討論などで、それらの素養が評価されるだろう。

自分に合った大学・選抜方法を知ろう ー情報収集のコツー

①志望校の学校推薦型・総合型選抜を確認しよう

もし学校推薦型・総合型選抜での受験を少しでも考えているのであれば、次のステップとして自分の興味のある大学のウェブサイトなどを見てほしい。その大学で、学校推薦型・総合型選抜を実施する予定があるか見てみよう。また、アドミッション・ポリシーや選抜方法にも目を通してみると良い。

②オープンキャンパスで大学を知ろう

最大の利点は、模擬講義などを通して、大学での学びの一端に触れながら、自分の興味、関心を深められること。これは後々、受験することになった場合にも必ず役に立つ。その大学を知ることが、「なぜこの大学でなくてはならないのか」という理由を見つけることにつながるからだ。それは「志望理由書」や面接で自分をアピールすることに不可欠となる。

③学校の先生に相談しよう

学校推薦型・総合型選抜は、書類の準備から入試対策まで、学校の先生方のサポートやアドバイスが一般選抜以上にモノをいう。先生に小論文の添削をしてもらったり、模擬面接をもらい合格を勝ち取る受験生は多い。現役生のみなさんは、先生方を大いに頼りにしながら、後悔のない受験戦略を立ててほしい。

2/3 (土) に「進研共通テスト模試 (マーク式)」が実施されます。

1月進研記述模試はどうでしたか。入試では、だいたい60%以上正解できれば合格します。次のマーク模試に向けて、各教科・合計の目標点を設定してみましょう。

● 1・2月進研模試目標点 (「大学合格者」の模試平均点)

※新年度、学部・学科の再編がある大学については旧学部・学科のデータです。

《参考》 バネッセ『進研模試合格ライン2023 高2生用』より)

数値は得点/合計 (偏差値) を示す (ただし、*は2022のデータ)。

大学	学部	学科	2年1月	2年2月
徳島大学	理工	理工(電気電子)	224/600 (54.1)	432/900 (54.1)
	生物資源産業	生物資源産業	245/600 (52.5)	458/900 (53.6)
		医	399/600 (69.3)	698/900 (72.7)
	医	医科栄養	267/600 (54.9)	501/900 (57.0)
		看護学	239/600 (52.0)	473/900 (54.8)
	薬	薬	353/600 (64.3)	614/900 (66.0)
総合科学	社会総合科学	215/600 (54.1)	417/900 (54.1)	
鳴門教育大学	学校教育	国語	* 228/600 (54.5)	* 434/900 (56.6)
広島大学	文	人文	315/600 (66.2)	565/900 (67.2)
	教育	初等教育	323/600 (67.2)	557/900 (66.5)
	工	機械	314/600 (60.1)	544/900 (60.4)
岡山大学	文	人文	299/600 (64.5)	544/900 (65.3)
	教育	小学校教育	296/600 (63.9)	536/900 (64.0)
	工	機械システム	299/600 (58.5)	554/900 (61.3)
香川大学	法	法	264/600 (60.0)	502/900 (61.6)
	教育	中学校教育A	241/600 (57.3)	458/900 (57.8)
	創造工	創造工A	254/600 (53.5)	471/900 (54.7)
高知大学	人文	人文	236/600 (56.7)	446/900 (56.7)
	理工	生物科学	244/600 (52.4)	457/900 (53.5)
高知工科大学	経済マネジメント		202/600 (52.6)	406/900 (53.2)
	システム工		229/600 (50.8)	422/900 (50.7)

ここでは一部の大学しか挙げられていません。

自分の志望校の得点率を進研模試までに一度調べておき、目標達成に向けての学習を進めていきましょう!!

